

## 疫学研究に関する情報公開

福島県立医科大学 周産期・小児地域医療支援講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成24年8月

福島県立医科大学 周産期・小児地域医療支援講座 講座主任

【研究課題名】 須賀川地方の小児科・産婦人科医療の動向に関する研究

【研究期間】 平成24年9月1日～平成35年3月31日

【研究の意義・目的】

福島県は、周産期および乳幼児の死亡率が全国平均に比べ高い状況にあります。2004年に須賀川市の福島病院に産科が併設されて以来、全国平均を下まわってきた新生児死亡率は、2010年には全国平均を上回り、周産期死亡率も、2006年以降連続で全国平均を上回っています。また、県内乳児死亡率も2006年以降、上昇を続け2010年には全国平均の2.28を大きく上回る3.03となっています。

須賀川市内の公的病院は、全県的な周産期医療及び県中地区の小児科医療分野において中心的な役割を担っています。この地区の臨床データを集積し解析することにより、本県の高い周産期・新生児・乳幼児死亡の原因究明することが可能となります。また対応策を研究し、地域に密着した後期研修プログラムを開発することにより、周産期及び小児医療の向上に成果が期待できます。

本研究は、周産期・小児地域支援講座（須賀川市による寄附講座）の研究テーマ（周産期・小児医療支援システムの構築と地域密着型後期研修プログラムの研究及び開発）に沿うものです。

【研究の方法】

周産期・小児地域医療支援講座の小児科医は公立岩瀬病院および国立病院機構福島病院を、また産科医は国立病院機構福島病院を定期的に訪問し、各病院の承諾のもと、下記のデータを収集します。既存資料（外来受診・入院状況に関する事務資料、診療録）を用いたデータ収集であり、対象期間は、県内の周産期死亡および乳児期死亡が全国平均より低かった2006年から以降、現在までとします。データは連結不可能匿名化（個人とデータの照合ができないようにすること）の状態として、各病院から持ち出し、福島県立医科大学でデータの解析を行ないます。

受療動向に関するデータの収集・分析により、あるべき小児科及び産婦人科医師の診療体制及び勤務環境整備を検討することが出来ます。また、この地域に密着した魅力ある後期研修プログラムの開発が可能となります。また、県内の新生児集中治療施設（NICU）の中で最多の入院を担っている国立病院機構福島病院と、県中地区の小児科医療分野において中心的な役割を担っている公立岩瀬病院の患者予後を検討することにより、本県の高い乳幼児死亡率の原因究明と対応策を検討し、周産期及び小児医療の向上に成果が期待できます。これらの結果については、各病院および須賀川市に報告を行います。

収集するデータ

外来患者に関して：患者数、患者内訳（郵便番号までの住所、性別、年齢等）、来院時状況（月別・週別分布、時間外来院数等）

入院患者に関して：患者数、患者内訳（郵便番号までの住所、性別、年齢等）、入院時状

況（月別・週別患者数分布、入院時刻、救急搬送状況）、入院後状況（傷病名、入院日数、集中治療状況、院外搬送状況、予後）

医師勤務実績：医師あたりの外来・入院患者数、当直体制、研修医教育実績等

【本研究に関する問い合わせ先】

○ 研究内容に関する問い合わせ先

〒960-1295 福島県福島市光が丘 1

公立大学法人福島県立医科大学 周産期小児地域医療支援講座 担当 桃井伸緒

電話：024-547-1295 FAX：024-548-6578

E-mail：pediat@fmu.ac.jp

○ 個人情報に関する窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘 1

公立大学法人福島県立医科大学 総務課 大学管理係

電話：024-547-1007 FAX：024-547-1995

○ その他ご意見の窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘 1

公立大学法人福島県立医科大学 研究推進課 研究支援担当

電話：024-547-1925 FAX：024-548-1991

E-mail：rs@fmu.ac.jp